

都市再生整備計画（宇都宮都市拠点地区）事後評価の概要

（１）計画概要

【地区名】宇都宮都市拠点地区
 【面積】327ヘクタール
 【交付期間】平成22年度～平成25年度
 【交付対象事業費】約17億円（国費率40.0%）
 【区域】馬場通り1～4丁目，駅前通り1～3丁目，大通り1～5丁目

（２）まちづくりの目標

【大目標】
 宇都宮ならではの「楽しさ」を味わう中心市街地 ～ 市民が愛する・誇れるまちなかへ ～

【小目標】
 商業地が様々な顔を持つ賑わいのあるまち ～集客～
 様々な人々が行き交うまち ～回遊～
 便利で快適な住みたいまち ～居住～

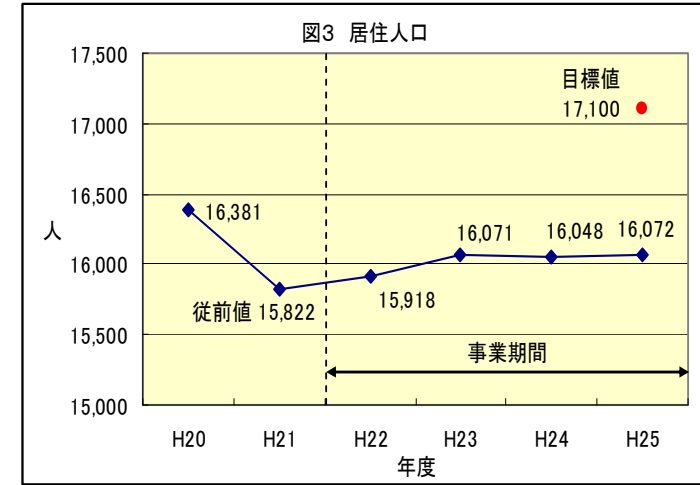
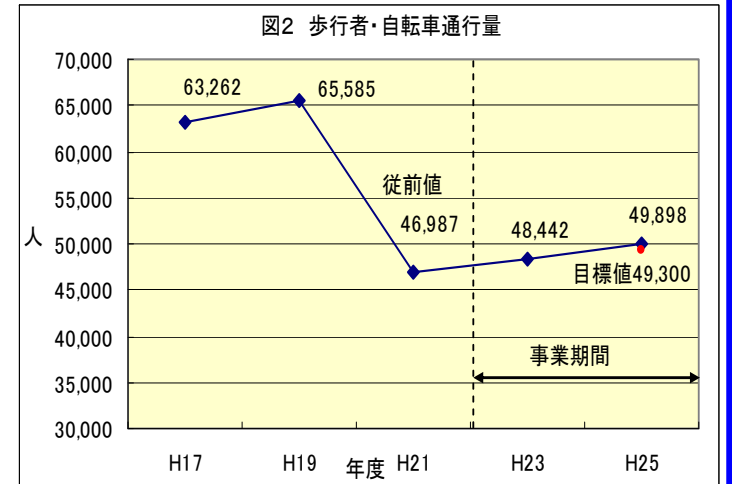
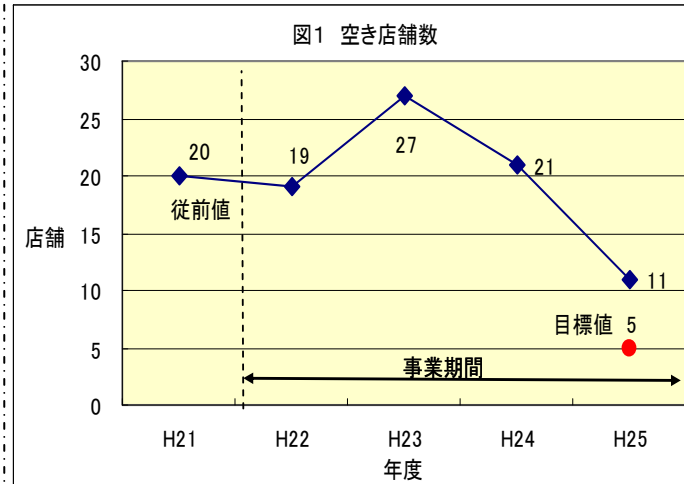
（３）目標の達成状況

| 指標 | 単位 | 従前値 | 目標値 | 事後評価 | 備考 |
|--------------------------------|----|------------------|-----------------|------------------|--------------------------------|
| ①空き店舗数 | 店舗 | 20 (H21) | 5 (H25) | 11 (H25) | |
| ②歩行者・自転車通行量 | 人 | 46,987 (H21) | 49,300 (H25) | 49,898 (H25) | まちづくりの姿勢が評価され、計画以上に居住者が増加している。 |
| ③居住人口 | 人 | 15,822 (H21) | 17,100 (H25) | 16,072 (H25) | 補償交渉の難航により工事ができない公園があった。 |
| その他 オリオン市民広場で開催されたイベントでの集客数 | 人 | 141,740 (H21) | — | 163,401 (H25) | |

注) ④は、当初設定した数値目標以外の指標（参考値）

（４）実施課程の評価

【モニタリング】 実施なし
 【住民参加プロセス】 中心市街地活性化協議会，
 みちづくり勉強会（市道3号線：ユニオン通り），
 小幡・清住地区まちづくり協議会
 【持続的なまちづくり体制の構築】 中心市街地活性化協議会，大通り景観づくり推進協議会



（５）まちの課題の変化

- 魅力ある商店街等支援事業や中心商業地出店等促進事業などにより商店街の魅力が向上したことや、オリオン市民広場への大型映像装置を設置したことによりイベント数が増加したことなどから、歩行者・自転車通行量が増加した。
- 大型映像装置を設置したことにより、商店街などが行う多種多様なイベントが増加し、賑わいを創出した。
- 都心居住促進事業や市街地再開発事業等により、居住人口の減少に歯止めがかかりつつある。

（６）今後のまちづくり方策

- まちづくり方策**
- ・ 関連事業を継続的に実施することで、歩行者・自転車通行量の増加を継続させていく。
 - ・ 市民ニーズに対応した居住促進事業を更に進めていく。
 - ・ みちづくり勉強会や大通り景観づくり推進協議会など様々な立場からの意向を把握しながら、事業を進める必要がある。
 - ・ 誰もが安心して快適に暮らせる、都市環境を形成する。
 - ・ 都市拠点として、広域的な交流や面的な賑わいを創出する。
 - ・ 本市の中核性や存在感の向上に資するため、広域的な交流や賑わいを創出する商業、文化・芸術、教育などの高次な都市機能を集積する。